

題名：ジェンダー・フリー教育の授業分析—総合的な学習の時間における取り組み—

氏名：○藤井芳枝（鳴門教育大、院）

目的：ジェンダー・フリー教育を総合的な学習の時間に行うためのカリキュラムを試案し、単元開発と授業実践を行った。授業のねらいは1) 性別による二分法が生活の中でルール化されていること、2) このルールは社会的・文化的につくられたものであること、3) このルールは変更・交替・修正が可能であることに気付くことである。この授業分析を通してジェンダー・フリー教育の指導方法、成果及び意義について探る。

方法：島根県浜田市の小学校3年生を対象に、「どうしてわかるの？」と題した授業を行った（全8時間×2クラス、2000年6月2週間）。全授業はビデオ録画し、それらをすべて文字化した。教師の発問、児童の発言や行動、学習に用いたワークシートを「色の選択に関すること」、「女男で分けられているものに関すること」、「少年『サ男』の発言や行動」に着目し分析した。

結果：大部分の子どもたちは性別に基づく二分法を理解していた。またこの二分法に疑問を持たず、自分の行動や発言に結びつける考え方や、二分法を身につけることよりも自分の主体的な選択や好みを重視し、発言や行動に結びつけたりしない考え方があった。前者は選択の理由を述べる際に「男だから・女だから」などの表現を用い、後者は「自分が」と主体を明確にした表現を用いた。後者は「自分らしさ」を重視する考え方につながっていく。など。以上から、ジェンダー・フリー教育を「総合的な学習の時間」のカリキュラムに組み込み、計画的かつ継続的に教育する意義を述べる。